

常森医師 地域医療研修



私は2007年12月から2008年1月の2か月間を南大島診療所、奄美中央病院、徳之島診療所で研修させて頂きました。この2か月間で感じた最も大きなことが3つあります。1つ目はどこで、どんな施設で医療をしようともやることはあまり変わらないんだということです。マンパワーや施設



のインフラの違いはあれど、結局は目の前の患者さんと対峙して話を聴いて、診て、考えて、検査と治療を行う、そんな当たり前のことを再認識できた時間でした。2つ目は、あまり違いはないとは言いつつも大きな違いも見えたということでした。それは奄美群島内に心臓



血管外科がないということです。大動脈解離 Stanford A型の患者さんが自衛隊のヘリで沖縄まで救急搬送されるのを経験しました。急性心筋梗塞の患者さんが心臓カテーテル検査は行われたものの、万が一のことを考慮して血管形成術は行われず、待機的に内地で行うということを経験しました。これらは島内に心臓



血管外科がないということが原因でした。全ての地域にあらゆる高度医療を持ち込むことは現実的には不可能で、これがこの地域での医療スタイルなんだとつくづく感じました。3つ目は経営です。鹿児島生協病院ではコストについてはあまり気にすることも気にさ



せられることもなく(単に関わろうとしなかっただけ?)、医療を行っていましたが、スタッフの方々のコストに対する意識はより小規模になるほどより強いように感じました。研修も終了し



て改めて振り返ると、今回、唯一心残りだったのは班会を経験できなかったことです。地域住民が他に多数の病院などがある中、どうしてこの病院・診療所を選ぶのかという生の声を聴ければ、よかったかと思いました。最後になりましたが、関係するスタッフの皆様方、医局の先生方には大変お世話になりました。特に指導医の今和泉先生には診療・研修全般、私の担当患者さんのことだけでなく、私の生活・家族のことまでお気遣い頂いて本当に感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうございました。振り返ればあっという間でしたが、その中で得たものはきっと今後の大きな糧となるだろうと実感していますし、また、そうしなければならぬと思っております。